

さとう ゆうと
佐藤 宥斗さん
(大橋町)

キラリ★ 話題の「ひと」



○プロフィール

大阪府出身。昨年佐野市に移住。
一般社団法人日本クリケット協会
ビジネスディバロップメントコー
ディネーター

クリケットでつながる 世の中を

クリケットのことを話し始
めたら止まらないほど、ク
リケットが大好きな佐藤さんに話
を伺いました。佐藤さんがクリ
ケットを始めたのは、高校の部活
動とのこと。友達に誘われて部活
見学に行ったところ、いつの間
にかクリケットを始めていたそう
です。佐藤さんにとってのクリケッ
トの魅力は何だったところ「競技と
してのクリケットはもちろん好き
ですが、それ以外でもクリケット
が醸し出す雰囲気、素敵な時間、
相手をリスペクトする紳士淑女の
精神など魅力はたくさんあります
ね」とのことでした。この他にも、
紹介しきれないほど、たくさんの
魅力を語ってくださいました。

また、佐藤さんが大阪から移住
してきた理由も伺いました。「大
阪府貝塚市も佐野市と同じよう
に、クリケットのまちの活動をし
ていて、活動当初からその担当を
していました。日本でクリケット
をしている人なら誰しもが佐野に
足を運んでみたいと思うし、佐野
でプレーしてみたいと思う。私も
リーディングシティーである佐野

市でクリケットのまちづくりの勉
強をしたいと思い、移住しました」と
話してくれました。そして、現
在は「クリケットのまち佐野」に
関する仕事をしているそうです。

最後に、これからやってみたい
ことを伺いました。「先日、貝塚
市と佐野市が『災害時相互応援協
定』を締結しました。これは台風
19号災害の際に、クリケットで縁
のあった貝塚市から、いち早く義
援金や職員派遣で支援していただ
いたことがきっかけで実現しまし
た。これを一例として、クリケッ
トが人と人、街と街、企業と企業
などをつなぐきっかけとなるよう
なことをしたいです」と話してく
ださいました。

スポーツにとどまらないクリ
ケットで、いろいろなつながりを
つくっていくようにしている佐藤さ
ん、素敵な笑顔の優しい青年です。
(市民記者 尾島民江)



▲クリケットでつながる仲間

市長からの メッセージ

メッセージ

私が市長となり、1年が経過しました。1年前にお約束したさまざまな取り組みについて進めてきた結果、多くのものを形にすることができましたので、今回は、そのうちのいくつかを紹介させていただきますと思います。子育て教育関係では、保育料について第3子から無償化しておりますが、第2子から無償化し、そして高校3年生までの医療費についても今年度から無料化を開始しました。そして、資格試験受験料助成事業というところで、市内の生徒、学生の職業能力向上や就職機会の拡大を目的として、1つの資格試験について年1回の受験料を全額負担する事業もスタートできました。全額助成は全国初となります。また、本市には佐野市立の他、県立、私立の中学、高校などがいくつもあり、教育力を高め課題の解決を図るため、公立と私立の教師や保護者などで検討をする「公私教育連絡協議会」を設置いたしました。そして、重点政策の1つである令和元年東日本台風被害からの復旧復興の加速では、台風被害の教訓から、災害復旧に迅速に対応するためには平常時から技術職員の組織体制を見直す必要があると考え、「技術センター部」を設置し、有事の際の対応体制を強化いたしました。もう1つの重点政策である、新型コロナウイルス感染症対策ではワクチン接種や検査の実施など新たな課題に対し常に迅速な対応が求められる中で、ワクチン接種推進プロジェクトチームを立ち上げるなど迅速に対応できる組織体制を構築し、対応してまいりました。新型コロナウイルス対策につきましては、まん延防止措置の解除から感染者数が高止まり状況にあり、引き続きしっかりと対応していきたいと思っております。

1年間市民の皆さんとともに、市民の皆さんを思い、しっかりと事業を進めることができました。この他の事業につきましてもしっかりと形にしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

金子 裕

今回の表紙 「飛駒町の鯉のぼり」 令和4年4月9日撮影

飛駒町むらづくり推進協議会により、根古屋森林公園に鯉のぼりが掲げられました。鯉のぼりたちは、仲良く気持ちよさそうに大空を泳いでいました。





散歩がてら図書館に行ってみませんか？

多くの人が利用される佐野市立図書館は、昭和26年に教会の一部を借用する形で開館されました。その後何度か場所を変え、大祝町にあった元県立佐野保健所を17年間利用した後、昭和58年に現在の場所に新築されました。写真は移転する年に撮影された、レトロ感がすてきな旧図書館です。人気の移動図書館「ひまわり号」は、当時は「しらぎく号」という名前だったそうですよ。



▲昭和58年当時の旧図書館

コロナ禍で閉館していた時期もありましたが、今年に入ってから、セルフ貸出機の導入により、非接触での利用もできるようになりました。5月15日(日)までは「こどもの読書週間」の企画として乳幼児から高校生までの年代別に、人数限定で「としょかんふくぶくろ」を貸出中。袋を開けるまでどんな本が入っているか分からないワクワク感が大好評だそうです。(市民記者 小林春美)

閑援隊が栃木県農業大賞で栃木県知事賞を受賞！

閑援隊が栃木県農業大賞で栃木県知事賞を受賞し、3月24日(木)に表彰式が実施されました。閑援隊は、移住者を含む閑馬地区の農地の状況に危機感を抱いた地域住民によって平成30年に設立された団体で、耕作放棄地を活用した稲作、甘茶栽培など、地区の活性化に向けた取り組みを行っています。

農業体験や農泊ツアーなどの都市農村交流も実施し、将来子どもたちが帰りたくなる地域づくりに取り組んでいるとのことです。

地域が抱える耕作放棄地などの課題の解決に向け、地域住民のみならず移住者も主体的に活動に参加し、実践的な取り組みを行っている点が高く評価されたそうです。

今回の受賞により、閑援隊は栃木県代表として、豊かなむらづくり全国表彰事業に推薦されるとのことです。



▲表彰式の様子

佐野弁
ばんざい

行ないのよいこと(あるいは子)を
「キタイ」という

よい行いをした子どもをほめる「ほめことば(方言)」には、どんなものがあるでしょうか。

能力の優れた子というオゾイ・オゼーについては、過去に掲載しました。そこで今回は、家事手伝いやあいさつなど行儀や作法に対するほめことば「キタイ」および、行動やしぐさに対するほめことば「ハシッコイ」「マメ」などについて述べてみましょう。

キタイはどのようなときに使うのか、まず、その例を見てみましょう。

「あの子は道ばたで近所の人にデッカす(会う)と、チャント(きちんと)あいさつするんだってき。だから、みんなからキタイ(な子)だねえっていわれてるんだって」

言うことや行うことがしっかりしていて、心打たれるような子を見ると、トシヨリ(老人)は「キタイな子だねえ」などといってほめたものです。子どものほめことば「キタイ」には、並々でなく珍しいという意味が込められています。さらに子どものほめことばに、ハシッコイ・ハシツケイがあります。動作が素早く進行するという意味もあります。

「あの子はこがら小柄だったけどハシツケイから、運動会ジャーいつも一等だったよ」

よくはたらき、よく動き回ることをマメといいます。これはおとなにも子どもにも使えます。

「病弱の母親の世話をしたり、オバンシ(家事仕事)もいっさい1人でやってるんだってき。若いのにあの娘はマメだよね」

(市民記者 森下喜一)

